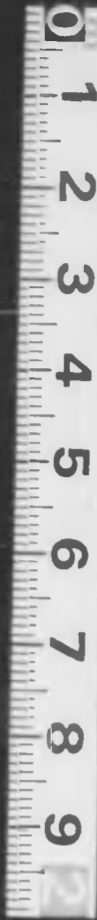


週寫眞
報

情報局編輯
九月廿一日
第二十四號
第七



われ等は

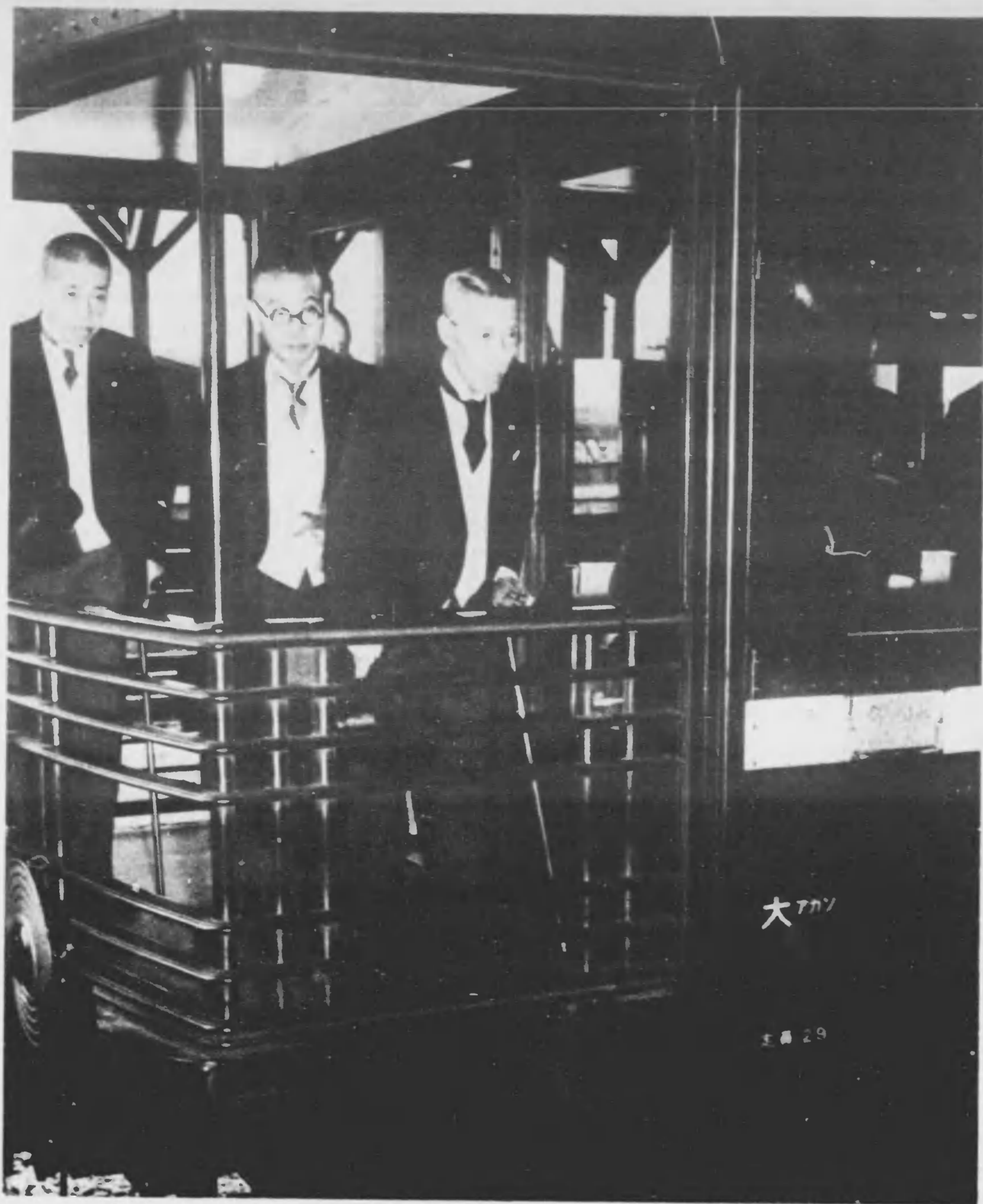
英靈に額づき、遺族を援けたであらうか

傷疾軍人を勞はり、出征家族を助けたであらうか

今われ等に過ぎてもなほ及ばぬもの

軍人援護の心と行爲

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



大アソ

主員 29

へ國中新

節使訪答 途首のれ晴

さきには汪主席、近くは
褚特派大使の來訪等國民政
府の示した數々の誠意に答
へるとともに、大戦下日華
兩國の提携を一段と強化す
るため國書を擧げて中華民
國に特派される平沼、有田、
永井の三特派大使は、隨員
十八名を随へて九月十七日
午前九時東京驛發「つば
め」で晴れの首途につしま
した。

鹿島立つ三特派大使（右
から平沼、有田、永井の三
大使）

軍人援護強化運動

十月三日—八日

再起を夢みて 傷も忘れた昨日今日

千葉縣傷痍軍人下總療養所

十月三日から軍人援護強化運動が全国で行われますが、私たちのまはりには傷痍の勇士や、靖國の神とされた勇士の遺族や遠く戦地に夫や兄を送られた家族の方たちが澤山おいでになります。私たちが今日、これほどの大戦争をしなければいかにもすからに容れるのは何よりもまづかうした忠勇無双の勇士が盡忠報國のお働きを下されたからです。ですから私たち銃後の國民はこれら傷痍軍人、軍人の遺族、家族に對して深い感謝を捧げるとともに、かうした方たちが日本の國民として奉公の誠が盡せるやうに私たちは出来るだけ心の支度協力をいたしませう。

畏くも 天皇陛下には軍人援護に關する優渥なる勅語を下し賜ひ、その中に「朕が忠貞ナル臣民銃後ニ在リテ相率キ公ニ奉シ出征ノ將兵ヲシテ後顧ノ憂ナカラシム朕深ク之レヲ嘉尚ス」と仰せられておます。また 皇后陛下には

との有難き御歌を御下し遊ばされておます。政府は勿論軍人援護に關しては萬全の施設をほどこしておますが、勅語に仰せ出だされてある通り、私たちは傷痍軍人、軍人の遺族家族に對して深い感謝を捧げるとともに益々隣保相扶けあつて遺族の方や出征家族の皆さんの心の隣組となつてお力添へをし、傷痍の勇士にはその手足ともなつて勇気づけ、億一心、みんな一緒に火の玉となつて戦争完遂に邁進しようではありませんか。

千葉縣傷痍軍人下總療養所には頭部に戦傷を受けたお氣の毒な勇士たちが再起奉公の熱意に燃えてひたすら療養に専心してをられます。

ほかの戦傷と違つて頭部戦傷の人たちは除役や召集解除になつても精神的、肉體的障害が残り、頭痛、眩暈や又は傷害の如何によつて手足が麻痺し、視力を減じ、言葉が不自由なつたりして日常生活を営む上にもいろいろの御苦勞があるわけですが、療養所では世界的に完備した脳外科手術の設備がありますし、



レントゲン診査で頭蓋内に残つた弾片をさがす



運動中傷を受けた勇士の脚能と通性の検査

軍醫さんと看護婦さんもお世話して一日も早く回復されるやう努力されておますが、かうした勇士が退院されたらこんどは私たちが看護婦さんになつて、温い心でなにかとお世話しようではありませんせんか。

撮影 軍事保護院



秋陽を浴びて寝顔
射さんと退院のト
マトを探る。もう
退院も間近だらう

将来この方面に再
起する勇士のため
に機械工業の實
務も行はれる。こ
れも作業療法の一
つだ

作業療法の一つと
してワイロンか
け。履足の洗濯し
たシャツが次々と
仕上がる





婦人科 手術室におナベリヤフランクに運び取れた子供たちは、授業を終って帰ってきたお母さんの腕へ抱かれながら飛び込んでゆく

婦人科 手術室におナベリヤフランクに運び取れた子供たちは、授業を終って帰ってきたお母さんの腕へ抱かれながら飛び込んでゆく

婦人科 手術室におナベリヤフランクに運び取れた子供たちは、授業を終って帰ってきたお母さんの腕へ抱かれながら飛び込んでゆく



夫の遺志を継ぐ 明日への希望を胸に

母子寮 アパートのそばに、部屋毎に設けられておて、放課後は英語を中心とする女子の生活が中心となる

軍人遺族東京職業補導所

かよわい女の身に鞭打つて生活戦線に苦闘する軍人の未亡人たちに、将来の不安もなく一本立ちの生活ができるやうに計られた生計の途を與へてやることは、最も大切な軍人遺族の一つでなければなりません

東京補導所の西大久保にある風俗財團軍人補導所の「遺族職業補導所」は、かつての軍人から政府の援助によつて設けられたもので、これまでもある生花や手藝などに重点を置いた短期間のものから一歩を進り、音楽、看護、

た遺族たちの健やかな姿を見て君國に殉じた英霊もさだめし地下にあつて喜んでゐることです

「財を開いたなら何といふ名前をつけようかしら」そんな楽しい生活の設計が、と頭をかすめるときもある



補導所 大いこねて特別に教室へ入れてもらつたのであらう。お母さんと机を並べておとなしく先生の話をきいてゐる子供がある



補導所 産湯の使はせ方も教へた。今日は産後した産婦から大膽下に力強く高い産後が聞えてくる



補導所 懇切な指導と熱心な研究環境、まもなく一人前の婦人科医士が誕生する

愛知第一国民学校 八幡町 兵隊さん有難う



八幡第一国民学校



出征家族の下村さんを訪問した慰問隊のスケッチ班代表高橋科二年生野部力君外二名は、照りつける暑さの中で筆を運んでます。戦地の下村さんが受取つたものと喜んでおせう。

愛知縣知事八幡町第一国民学校の西山校長先生は、いま配達されたばかりの軍事郵便を握ると、お食事中の箸を投げ捨てて、お食事に、職員室に備へ付けたマイクの前に駆け寄りました。そしてここから全校児童に通じる放送のスイッチを入れて、食事中の全校児童に先月竹さんが出した慰問文のご返事が、たゞいま書きましたから、これから頑ま上げますと前置きして前略、支那の少年少女は氣の毒なものです。日本軍の



けふは故杉崎中尉さんの命日です。竹んなの丹誠で作った野菜を精選料理を作り、代表高橋科一年生平松久枝さん外二名は竹内先生と一緒に飾りしました。



前略の兵隊さんからきたおはがきを讀み上げる西山校長先生

入城となれば嫌しさうに集つて先生々々といつてきますので、食物等を與へてやりませう。學校にも通へず野良犬のやうに買ひ食ひする敗戦國の悲惨な有様の子供だけに立ほさら考へさせられませう。諸君、戦争にはどうしても勝たなければなりません。そのためには國民があくまで力を協せて働き、諸君も仲よく勉強して、體を大切にしてお國のためにつくして下さい。中支第一線の兵より、をほり校長先生の手紙朗讀は、これで終りましたが、先生はすぐ全児童に起立を命じて一緒に同校の誓の詞を朗讀しました。

「私共は一舉一動一呼一吸の悉くを、天皇陛下の御爲に致します」
「愛知縣知事多半島の一角から、かくも元氣に満ちた朗讀の聲が戦地の兵隊さんに聞えたら、どんなに兵隊さんは喜ぶことぞせう。そしてまた、この子供たちが「兵隊さん、有難う」とけなげにも軍人投函につくす純真な氣持や数々の行ひを知つたら、いや戦地の兵隊さんばかりでなく、銃後にあるわれわれにとつても大代を擔ふ少國民のこの心意氣こそ、何にもまさる願ひしさを覺えます。」

カンナ、萩など児童手作りの草花が校庭に咲いてゐます。供花園と呼ばれ、子供たちはこの花を切つて慰問に供へます。



呉市竹内先生は、兵隊さんから来た手紙が年月別にキチンと整理され、打屋の時には支那事変はじまつてからの日誌が克明に書かれてゐます。一歩この部屋に入れば、其國の白ひき涙が、共交際し、唯、唯、少年の懐れが、つづつと



苦難の峠を越えて

西田 進勇

★傷つき 産る★

遠くで誰か呼んでゐる。近くでまた呼ぶ音がする。私は夢の様な聲のする方ばかり目を開けて見た。そこには軍醫殿と衛生兵が立つてをられた。

「気がついたか、もう大丈夫だぞ」軍醫殿の聲であつた。何が大丈夫なんだらう。右を向うとした「アッ痛ッ」

呻きを上げた。首から右手、左手、身中中綱帯につままれてゐるのをはじめて意識した。さうだ、おれは負傷したのだ。私は戦友達の手によつて福留所に收容されてゐるのであつた。

入院生活十一ヶ月。入院中の手厚き看護については到底表現することもできない。私は何をしたらのだらう。それだのこの厚遇。私ははた愧ぢる。皇恩の有難さに感泣するのみであります。

★妻子待つ我家へ★

昭和十四年六月末、退院を許されて、再び相見ざる苦の家庭に父として、夫として歸ることを得た

つてくれ。日の前を急に展げた。平和な生活は二ヶ月半ほども續いた。ところが或る日合體に針を刺すやいな痛みを感じた。その内に合體が腫れを起した。無意識の裡にコンクリートの上に漏水して水溜りを作つてしまつた。給仕の子供に注され、気がついた。遂に翌日から熱動した。再診の結果「肺炎が原因だから温泉療養所へ加療せよ」との事になり、東京府軍人援護會にまゐり、その手續をして湯河原温泉臨時療養所に療養する身よつた。

療養生活二ヶ月の頃、静岡縣伊東町に新設された療養所に移る命を受けた。湯河原町に當時分設療養中の傷痍軍人二十数名は轉所するに當り、公私の別なく湯河原町から受けた厚志に報いたい、その具體的方法を講究した結果、軍事保護院總裁本庄閣下に揮毫を乞ひ、町に寄贈しようといふことになり、私が一同を代表して本庄閣下のところへお願いに行くことになつた。

野戦に彈幕の中を突撃することまでできても、かういふことは全く苦手であつたが、勇を鼓して東京西郊にある本庄閣下の門前に立つた。意を決して玄関に刺を通じると幸ひに御在宅であつた。私は急縮しつゝ招せられた應接室に通つた。閣下は温顔に微笑さへ浮かべられた。

「そこに掛けぬか」
「ハッ」
と腰を下ろした。私が書のことをお願ひすると閣下は微笑のまゝ、黙つて聞いてをられたが

★苦難の生活始まる★

三日の後、本庄閣下から小包が届けられた。嵐爽としてしかも剛毅そのもののやうな閣下の筆跡はと頼むのであつた

翌日から伊藤君は製造に妻と共に働いてくれた。二人が二人になつた。十割の力を得たのだ。私は得意先の強要に専念することが出来た。働いて働いて働いた。ところが今度は紙が足りない。小賣店では到底必要な紙が買はない。

「よし、問屋から分けて買はう」と思つて一軒々々の紙問屋を探して頼んで見たが、買積のない紙出しの私に紙を賣つて呉れるはずはない。だがこれは當然なことだ。すでに製紙業に入つてゐるのだから、元來、頼む方が無理なのであつた。

紙が買へなかつたら十数軒の得意先はどうなる。がつかかりして淺草菊屋橋まで来た時、岩戸洋紙店の老舗が目についた。また断られるかと思ひながら主人に會ひ、今迄の頼みを話した。苦衷を訴へた。黙つて聞いてくれた御主人は私の話を聞き終ると「分りました。みなさんの御苦勞もよく分ります。實は私も日曜毎に店の者と遠く病院まで問屋に何つてゐます。傷痍軍人の方のことでしたら出来る限り紙は續けて上げます。御の方は紙分があまりませぬから店の小賣の分を御値段で差上げます」

と意外な言葉に私はむしろおどろいた。しかも買積のない印刷業を営む同じ職友にも用紙を供給してゐられることを聞き、私はこの義侠心にすつかり感激してしまつた。漸く仕事は軌道に乗つてきた

「せひ僕にもやらせて貰ひたい、實は未だ生業についてゐないから」
伊藤君もこの事實に驚いて「初めて得た金三十圓、これこそ私の汗と努力の結晶であつた。伊藤君と注文先に行つた。そして初めて得た金三十圓、これこそ私の汗と努力の結晶であつた。

「せひ僕にもやらせて貰ひたい、實は未だ生業についてゐないから」
伊藤君もこの事實に驚いて「初めて得た金三十圓、これこそ私の汗と努力の結晶であつた。伊藤君と注文先に行つた。そして初めて得た金三十圓、これこそ私の汗と努力の結晶であつた。

「せひ僕にもやらせて貰ひたい、實は未だ生業についてゐないから」
伊藤君もこの事實に驚いて「初めて得た金三十圓、これこそ私の汗と努力の結晶であつた。伊藤君と注文先に行つた。そして初めて得た金三十圓、これこそ私の汗と努力の結晶であつた。

「報解軍心」の文字に充ち溢れてゐたその後、間もなく診察の結果、漸く歸宅を許された。再び歸る我が家。そこに待つのは妻と子供達との生活であつた。今度こそと、心に鞭打ちながら就職に奔走した。指導所の軍人部でも各所に照會の勞を煩はした。しかしまた右手の自由が完全でなく、このため適當の賃金は出来ず。今日は明日はと日一日と過ぎて行く。歸るに足らぬと感得が元で帰りました。子供と病妻を抱へ、生活は極度に詰つてくる。僅かの家財も一品、二品と消費してゆく。どうかして良い醫者に見せてやりたい。恥を忍んで區役所に向向いた。厚生課の係員の親切な世話で女子醫專附屬病院に入院させる事が出来、本當に助かつたと思つた。

この妻の發病等、空しく三ヶ月の日は流れてしまつた。どうかして自分の力で出来る仕事は無いのかと、夜も晝も、そして寝る間にも何か副業をしようと考えた。

さうだ、現役中に縫工を、陸軍病院入院中に洋裁を習得した経験を基礎にして洋裁をしようと思つた。しかしミシンを買ふ金はない。ミシンどころか糸を買ふ金もない。また髪髻になつた。洋裁を習つてゐた時のことが頭に浮ぶ。輕快なミシンの音、裁斷、型紙、型紙、型紙、さうだ型紙だ、獨立した一枚の型紙、これを作つたらどんなに便利だらう。洋裁の一番困難なのは型紙を作るのだ。その型紙を考案して市場に出したらどんな反響を呼ぶだらう。早速、研究に着手した。まづ婦人子供服數

通も新たに參加、外交に、擴張に努力された。得意先は増加の一方となつた。土曜も日曜もない。夜十一時、十二時迄も仕事をした。再び訪れた夏には最早や不安も焦躁もなかつた。既に授護會には金四百圓也を返還出来、私の意志として五十圓の寄附をさせて戴いた。

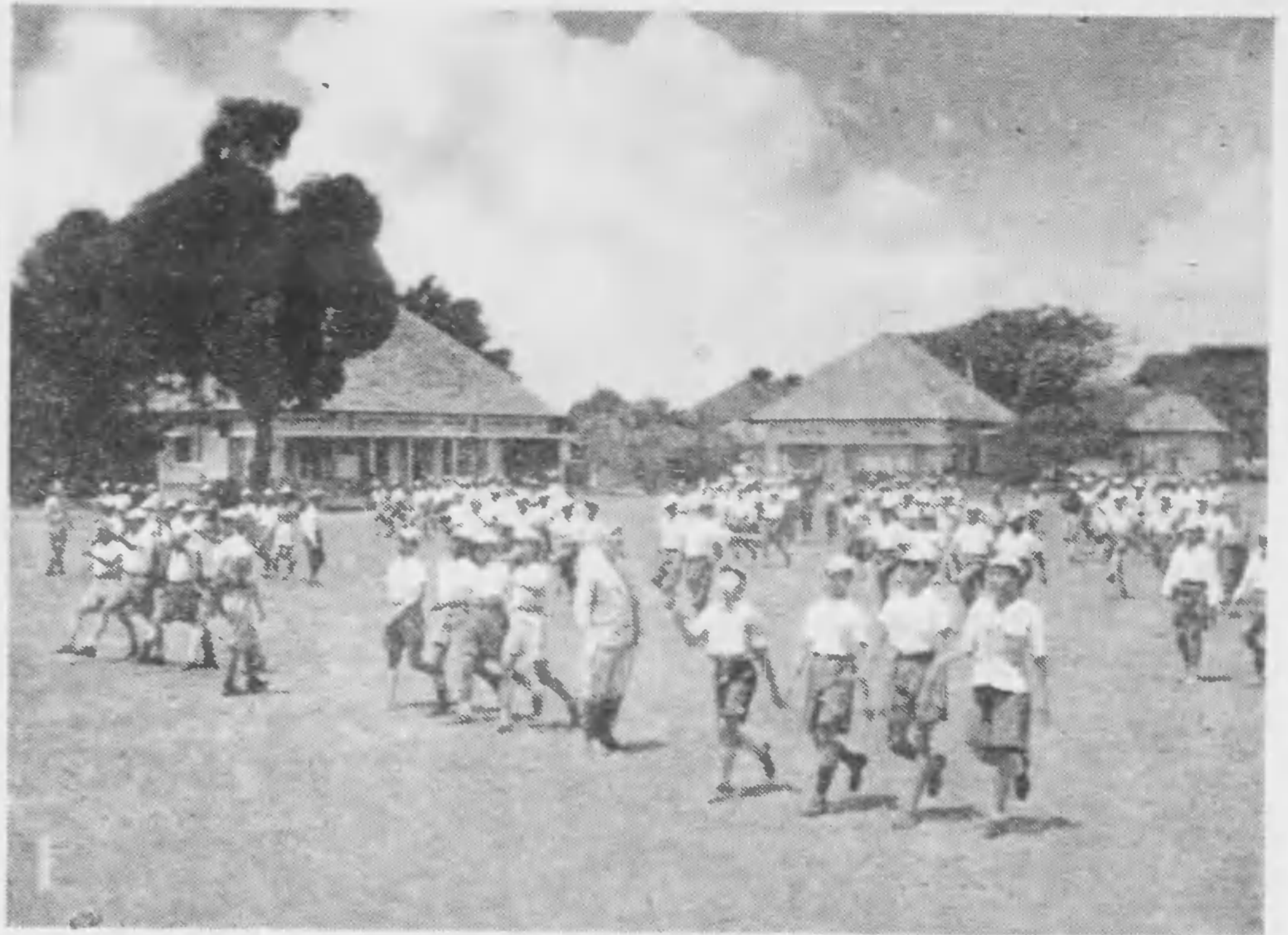
八月八日には軍人援護會本部御堀海軍少將閣下、軍事保護院、東京府から各關係の方々が生業状況視察に臨み、來訪せられ、激動のお言葉と共に金一封を賜はり、ついで、十月には銚後泰公會長東京市長大久保留次郎殿から職状奉公を賞せられ表彰状を授與せられた。再々光榮に感泣の外なかつた。得意先は北は青森、西は九州にまで延びた。思へば永い苦難の道であつた。然し未だ事業は緒に付いたばかりだ。本庄閣下の無言の教訓がなかつたら、授護會の生業資金と岩戸洋紙店主の義侠がなかつたら、私にいくら開闢があつても仕事は中絶、徒らに世の同情を乞ふのみとなつたであらう

親愛なる全國の傷痍軍人職友諸君よ、諸君と同じ我等の友は今後ますます増加するのであらう。このことを思ふ時「自分は只今かぎり傷痍軍人ではない」といふ氣持で、後から来る職友が一人でも多く立派に再起奉公のできるよう、彼等先導する炬火とならうではありませぬか

（在職中）
（在職中）
（在職中）

（在職中）
（在職中）
（在職中）

新生ワジの手で



一週間に二回軍隊教練が行はれる。すつかり日本語の読令を覚えてしまった生徒たちの、きびくした動作が心強い。

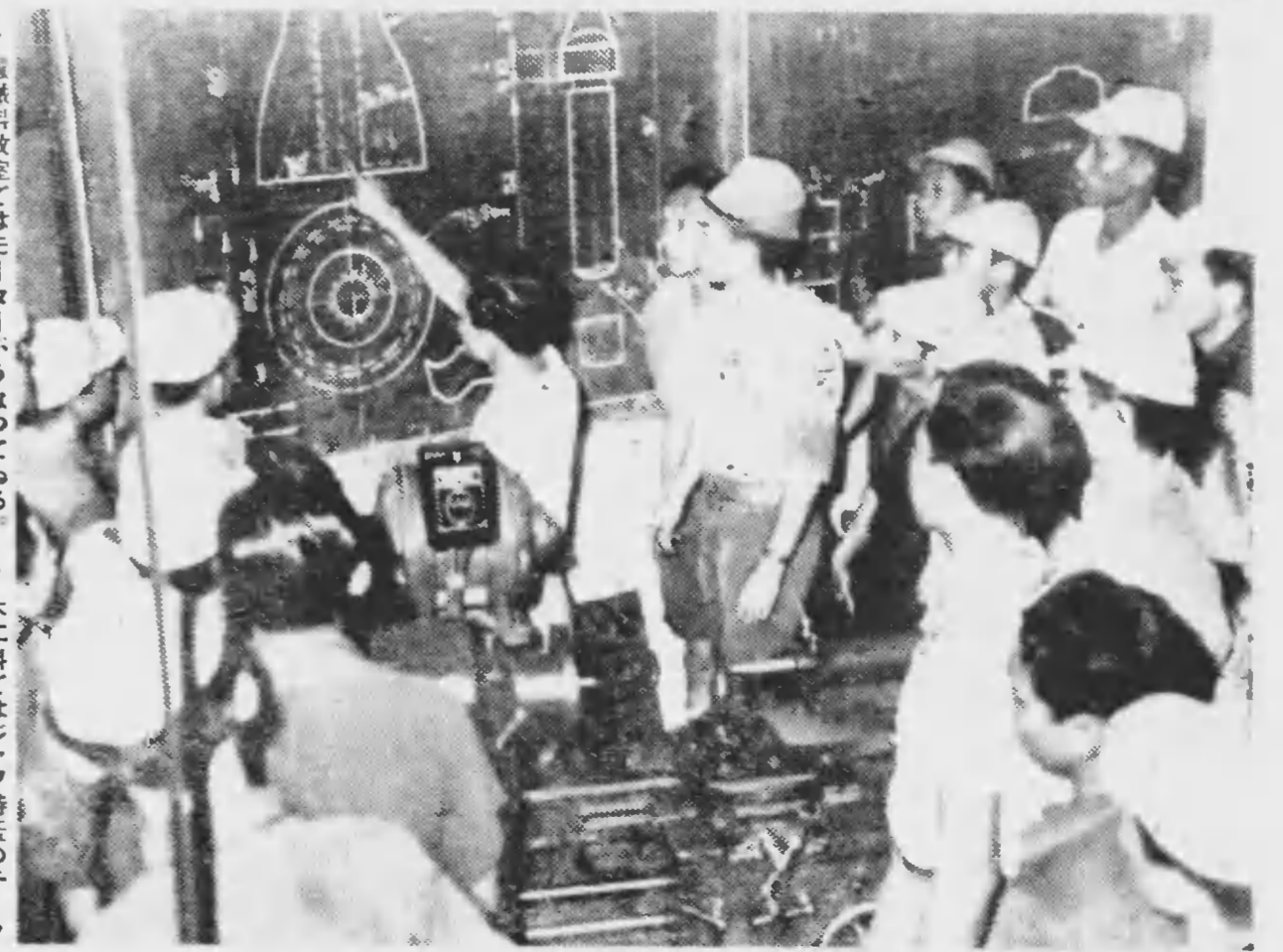
ジャワといへば、昔は、われわれには南の島だ。だが、今では本気で近い気がする。ジャワが皇恩に浴するやうになつてから、はや半年、僅かな年月ではあるがオランダの悪政時代とは全くその面目を一新してしまつた。いたるところ暗黒堅實な建設費を投じてゐる新生ジャワの頼もしい躍進ぶりを二、三紹介しよう。

その一……現地住民から若き技術家を擧げよう。と、軍政部教育局の財源で去る八月一日、ボタウィアに技術員養成所が再開された。現在、二百七十餘名の生徒だが、理論に、實際に、無類な勉強を続けているが、その張り切り方は大變なもので、六ヶ月の養成期間に一人前になると、これまで師匠者は一人も居ない有様である。

その二……このほど島外各地で有名なマシンの部外、トリーマンに、この部外管理の二日給開業が開始された。島外各地に、多量の現地住民、進んで摩り手を申し出た。毎朝早々から集合する住民は先づ國旗掲揚、次に開業、種まき、森本の手入れなど、災天に負けず懸命な作業を始めるが、その福は、皇軍に協力するが如く一律だ。

その三……物資建設工作も進捗し、砂鉄、ゴム、コーヒー等、またその他の生活必需品の生産は日を追つてます。盛んとなつてゐる何れも、煙草工場を訪れて見ると、多数の乙女たちが希望に胸をふくらまして生産にいそしんでゐるが、その嚆矢として立脚く姿に、起するジャワの頼もしい生産力が窺はれよう。

いそくと開墾に従事する現地住民



機械科教室ではモーターがうなつてゐる。機軸の操作や裏面の説明に先生は汗だく。木工科ではジャワ特産のチーク材を材料に、工作に一生懸命。



操業開始した煙草工場に働くジャワ乙女





マレーの俘虜 五

陸軍上等兵 竹森 一男 作

俘虜は、捕虜所の傍の空地に麻袋を敷いて、その上に腰を下ろした。フィリップは腰を下ろすと衣袋から汚れた手巾を取り出して顔の汗を拭いた。そしてその手巾を無難に折りたたんで懐にしまった。彼はそれを愛する手紙と手紙を握り、まじりと日本兵の姿を無気力な、僅かに好奇心のうごめいた顔で見つめ、キョとして足に視線を落して、そつと左手で血の染んだ繻帯の上を觸つた。隣りに足を投げ出してゐたヘンリーは戦友の視線を追つたが、興味なさそうに天を仰いだ。もう夜はすつかり明け離れて、白い浄められた空には雲が静かに網引いてゐた。鶏の聲がしきりに椰子に南まれた部落から起つた。薄紅色の一角が椰子の葉を透してみえり、水上にたゆたう淡い乳色の霧が散つて、爽快な朝が次第に匂つて来た。

ヘンリーは、日本の兵隊がそろつて、衣袋から巻煙草を取り出し、皆さうに煙草を吐き出す様子を見まじさうに見たが、慌てて視線をそらした。鎌田は「ほまれ」を一本取り出して微笑を含みながら彼に與へた。ヘンリーは愕然として

「サンキュー、サンキュー」と云つて、早すが、間もなくタイピンに送ります。英人俘虜は結局一ところに集結するでせう」と春峯少尉は率直に答へた

「それで、……インド兵俘虜は？」
「インド兵は俘虜といつても、今では殆んど日本軍に協力してゐて、非常に組織的になつてますからね。今度、この附近にあるゴム園内の英軍兵舎に容れて、新しい方法で仕事を始めます。」
春峯少尉は満口の眼をまともに見て云つた
「もうですかね。大へんなことになつたもんですな。」
と満口は感激した。一同は二人の對話を聞かうとして耳を敏てた

「今、クアラルンプールではインド兵を警官に就けて治安工作に協力させてゐるが、豫想以上の成績を示してゐますよ。前線では殆んどインド兵の戦意は別なものになりつゝあります。……まじり日本軍に投降しようといふ方向に向いてきたんですね。とんだん投降してゐます。第一線はジョーホルに向つてゐますが、これらのインド兵は、味方でもたつた英國に永い間、恨みを持つてゐたらしく、是非、日本軍と共に前線に出て、英軍を撃ちたいと懇願してゐるさうです。」
「ほう、それは愉快ですね。……」と一同は笑つた

「吾國が大切な植民地を防衛するのに、第一線にインド人を使つたのは、たしかに賢明ではなかつたでせうね。」
と満口は云つた

「吾國の植民地政策はなか／＼上手だが、作戦の上では重大な誤謬を犯したね。これはビルマでも、米國のフィリピンでも同じでせう。」
と云つて春峯少尉は煙草に火を點じた。

連口は持つていつた。他の三人の眼が輝いた。鎌田は他を無視することが出来なかつたので、立上つて、一人々々に分け與へた。ヘンリーはそこに仰向けに寝転ぶと、湯々とした空を胸へばい呼吸し、頬を凹ませ深々と嘆息した

捕虜は負傷兵に沃度丁幾の小磁器を與へて、フィリップに治療を促した。負傷兵は繻帯を解いた。彼は足首に擦過、鎌田を負つてゐるにすぎなかつた

満口は、俘虜を監視してゐる戦友の態度の後しさに感動した。戦争は残酷な事實である。彼等がどのやうな苦難を受けやうとも、それは軍の偉大な法則によつて施行せられるのである。その法則と運命の峻厳さの間にあつて、人間の遠い心を證據立てるものは、日本兵士の敵國俘虜に對する態度に外ならない。大國民の襟度を表明することである。彼等を入用から温い心で觸れしめる餘裕を持たなければならぬ。敵に尊敬される位の日本人でなければ今後世界に君臨できぬだらう

「ユウア、ネエム。」と吉村は一番年若さうな金髪で體格の兵隊に訊ねた。池原が英語を使つたので、みんなげろ／＼と笑つた

そして
「インド兵のこれからの仕事はインド獨立ですよ、なか／＼大へんだ」と笑つた

「しか／＼、僕は、英軍の俘虜になり損ねて、着くなつたから」
満口は嘗てない自然な笑顔をみせた。みんなから／＼と笑つた。分隊長の隣にきてゐた、もや／＼したものが、いつのま



「カーシ」と彼はきつぱり答へた
「ダーシ、ダーシ、ミスカー、ダーシ、君か。きかぬ名前だな」と吉村は笑ひながら云つた
「ブラ、ウモル、アンカウ、君の歳はいくつか」と吉村は突如にマレー語で訊ねた
「エー、エー、エー」と満口は怪訝さうなダシに答へた
「二十歳」と彼は一本の指を差し出して答へた
「椰子の木陰で、英人俘虜と話をするとおぼろげな思ひなかつたよ」と池原が肩をゆすりながら感極まらうに一同を眺め廻した
その時、山室機關の春峯少尉が自動車に來た。俘虜の服装點検が始まつた
一同は急に、両手をあげて従順に身を委せる俘虜の身體を、毅然とした態度になつて、點検し始めた。その假借なきまでに儼然とした取調べは、優しい兵隊とはかり思ひつめてゐた俘虜の顔色を瞬間裏返しにさせた。満口と鎌田は一つの麻袋に収めておいた私物品を點検した。傷いた兵隊の手帳から若い金髪の女の寫眞が出て來た。鎌田は知らぬ顔して事務的にそれを手帳に挿込んだ。葉夾のやうな細長い容器にはいつた赤マードと桃色のケースにはいつた緑色の楯が出た
「こんなもの持つて戦争してゐるから弱いな」と鎌田はたゞきつけるやうに麻袋に投げ込んだ
「彼等の生活の一切は終つたのだ」と満口は心の底で思つた。――點検は終つた
一同が自動車の上に乗ると、俘虜を擁して乗り込んだとき、太陽はすつかり昇つて、あたりは、朝の光に洗はれ、緑の熱帯植物はにかすつかり吹き飛んでゐた
満口は、この二十四時間中に、自分が大きな成長を遂げたことを感じた。それは運命がさうさせたやうにも思へたが、創造的な苦痛と忍耐が、その直前に、試験の手となつて伸ばされてゐたことを認めざるを得なかつた
俘虜を乗せた自動車は、車は馥郁とパイアの匂ふ舗道を疾走していつた。道端の椰子葺きの小屋には必ず日の丸の小さい国旗が掲げられてゐた。日本語學校に通ふ子供達が、手を振つて
「有難う」と叫んで、そして愛國行進曲を合唱しながら遠ざかつていつた。牛や山羊が怒々として自動貨車を避けた。鹿も、熊も、鳩も、鷹も、さうになるまで飛んだなかつた
（をほり）

頭を捻げ腕を伸ばし、みづ／＼と美しい姿で蘇つたやうにこの小さい村を包んでゐた。新鮮な朝は兵隊の眼に沁みだした。新しい希望が湧いてきた。わけもなく、嬉しい情報が待つてゐるところに向つて進むやうに、生きてゐるものさうを感得してゐるのであつた

渡船するために集つて来た數名のマレー人とインド人は草蓑にしやがんで、泥手と兵隊の様子を見つめてゐた。又とない場面であつた。常にマレーを我がもの顔に歩いてゐた英人の雄大な姿は彼等をすつかり怖かした。何よりも英人が偉いと信じきつてゐた卑屈な有色民族の最初の愕きだつた。好奇心に満ちて見つめてゐる、腰巻に跣足の、チョコレート色の原住民の姿が、今朝は何故か満口にとつて印象深かつた

マンピントエの營地で、一人の原住民が腰巻をからけて短く腰にさし込み、椰子の樹に登つて、緑褐色の果實をいくつもく／＼落した。そして両手と肩に持つてだけ下ら下けて自動車上の兵隊に渡した。モハム、ハムは一斗瓶に泡だつた白い椰子酒を満たして、息せき切つて持つて來た。兵隊は肩に銃をもたせて、貨車の上に腰を下ろした姿勢で受取り、口々に
「テレマカシ、」を叫んだ
自動車は動き出した
「やはり、この俘虜は、あの收容所に容れるのであつたか」と満口は、軍刀を支へ、自動車の行く手を眺めてゐる春峯少尉に思ひ切つて訊ねた。彼は、安心していつてゐる俘虜の様子を見て、ふと今後の運命が知りたくなつたのである
「應、私のところに連れてゆきます。たぶん收容所に容れることにならうと思ひ

支那事變以來、大東亞戦争の今日までのあの大戰果の陰には幾百万將兵とその遺家族の方の大變な勞苦のあつたことを思はねばなりません
この勞苦によつて得た大戰果にこたへ、軍人保護に關する勅諭の聖旨を奉讀して一國民の感激と感謝をこめて、大ざることから必ず實行して軍人保護を徹底的に強化させよう
一 常會席上、必ず「銃後奉公の誓」を朗誦せよ
二 戦後軍人、出征軍人、傷病軍人の家庭を訪ね真心の慰問を致しませう
三 出征軍人には慰問文、慰問袋を發送しませう。慰問文にはできるだけ留守家族の動靜、隣組の近況を、慰問袋には手製の手袋品等工夫をこらして下さい
家庭から錢と銅を出さう
十月から明年二月末日にかけて錢と銅の一般家庭特別回収が全国的に展開されます。大東亞戦争を勝利するための戦力増強と、急を要する船舶の充實のために錢と銅を確保することが絶対必要なのは皆さんです。今度こそど

十月の常會

軍人保護に努めよう
十月三日から八日までの六日間、全國一齊に「軍人保護強化運動」が展開されます
支那事變以來、大東亞戦争の今日までのあの大戰果の陰には幾百万將兵とその遺家族の方の大變な勞苦のあつたことを思はねばなりません
この勞苦によつて得た大戰果にこたへ、軍人保護に關する勅諭の聖旨を奉讀して一國民の感激と感謝をこめて、大ざることから必ず實行して軍人保護を徹底的に強化させよう
一 常會席上、必ず「銃後奉公の誓」を朗誦せよ
二 戦後軍人、出征軍人、傷病軍人の家庭を訪ね真心の慰問を致しませう
三 出征軍人には慰問文、慰問袋を發送しませう。慰問文にはできるだけ留守家族の動靜、隣組の近況を、慰問袋には手製の手袋品等工夫をこらして下さい
家庭から錢と銅を出さう
十月から明年二月末日にかけて錢と銅の一般家庭特別回収が全国的に展開されます。大東亞戦争を勝利するための戦力増強と、急を要する船舶の充實のために錢と銅を確保することが絶対必要なのは皆さんです。今度こそど



故國の香り

たゞの故郷の
定例し、こ
の間、四十
数戸の別荘
が散在し
て、その各
室に扇風機
の代りに扇
をとりつけ
た。冷涼の別
荘である。さ
らにマ
ラカから全
放され、こ
れは、

舟艇移乗

しづかな推移が續く……
ふたたび
影は影を生み
影は影のたしかさを信じ
蜘蛛のやうに巧みにいさゝか
のあふたげもなく
舟艇へ乗り移つて行つた
俺はそれら肉體の響きのなか
に
戦友を呼び
戦友にうつたふ
壯しい境國の魂を感じた
もの

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亜劇場に炎の
如き熱意をこめて我々を心ゆくま
で燃やしてくれた。我々を見て
私に感心して。そして、私は彼
等今次の冒険行を、彼等全員の
死を賭しての熱誠を公でもること
を知つてゐる。千古に輝くこのマ
ラカ攻撃戦に、俺も人柱となつた
戦友の無言の凱旋に、別れの任務を
終つての歸國、俺も私に、
俺より彼等と同船した。そしてそ
の強い聲に接する機会を得た。

木炭の増産と消費の節約に努めよう

今年の木炭生産目標は八億五千四百万
貫ですが、七月迄の生産実績では、同期間
の豫定計画に對して七割の成績しか示し
ていません
昨年は計画の八割七分までいつたので
すが今年はずいとも目標達成まで達しなけ
ればなりません、それはまだまだ、餘程
の努力がいるわけです。この際、木炭の生
産出荷に當つてゐる方々は食糧と同様に
大事なものだといふことを考へ、さらに一
段と奮起して下さい。一方、一般的消費
者、特に大都市の方々はこの生産の實状
と増産のために必死に働いてゐる人々の
勞苦を考へ、今のうちから一つの木炭も
粗末にせず、大切に使ふやうに心掛けま
せう

マレーの妙義山に
傷病勇士療養所

マレー半島における、本大東
地として知られてゐるマレー半
島が今、軍政部、バハ州の
警備で傷病勇士たちの療養所に
當てられることになつた。マレー
半島はアラ・ルンブルの
北方約九十キロで、バハ及びセ
ランゴール州に跨り、面積四千
五百フィートに達する岩石地帯
たる山で、頂上まで自動
車道が通じ、カメロン高原を
越すに比すると、マレー半島
は内陸の妙義山に似た山脈の
頂である
頂上には英國人養老地として
ホテル、テニスコート、ゴルフ場

まとるふるさと

一 慰問團を迎へて
馬場 月原 一郎
その日、われ
ふるさとの朝は
わが足元を
わが足元を
わが足元を

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亜劇場に炎の
如き熱意をこめて我々を心ゆくま
で燃やしてくれた。我々を見て
私に感心して。そして、私は彼
等今次の冒険行を、彼等全員の
死を賭しての熱誠を公でもること
を知つてゐる。千古に輝くこのマ
ラカ攻撃戦に、俺も人柱となつた
戦友の無言の凱旋に、別れの任務を
終つての歸國、俺も私に、
俺より彼等と同船した。そしてそ
の強い聲に接する機会を得た。

我々は鑿だ

我々は鑿だ。大東亜劇場に炎の
如き熱意をこめて我々を心ゆくま
で燃やしてくれた。我々を見て
私に感心して。そして、私は彼
等今次の冒険行を、彼等全員の
死を賭しての熱誠を公でもること
を知つてゐる。千古に輝くこのマ
ラカ攻撃戦に、俺も人柱となつた
戦友の無言の凱旋に、別れの任務を
終つての歸國、俺も私に、
俺より彼等と同船した。そしてそ
の強い聲に接する機会を得た。



十月

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 一日 大東亜省開設
(豫定)
- 朝鮮總督府施政
記念日
- 簡易保険記念日
- 第五回戦時郵便
貯金切手賣出
日
- 八日 八日までに軍人援
護強化運動
- 十一日 この日から鐵道
省で二十四時間
制を実施
- 十四日 鐵道記念日
が既に鐵道が開
通して七十年
- 十五日 鐵道殉職者慰靈
祭
- 十七日 神嘗祭
- 廿三日 神嘗祭例祭
- 卅日 教育勸励勸下場
記念日

滿洲國皇帝陛下
建國忠愛廟に
御親拜

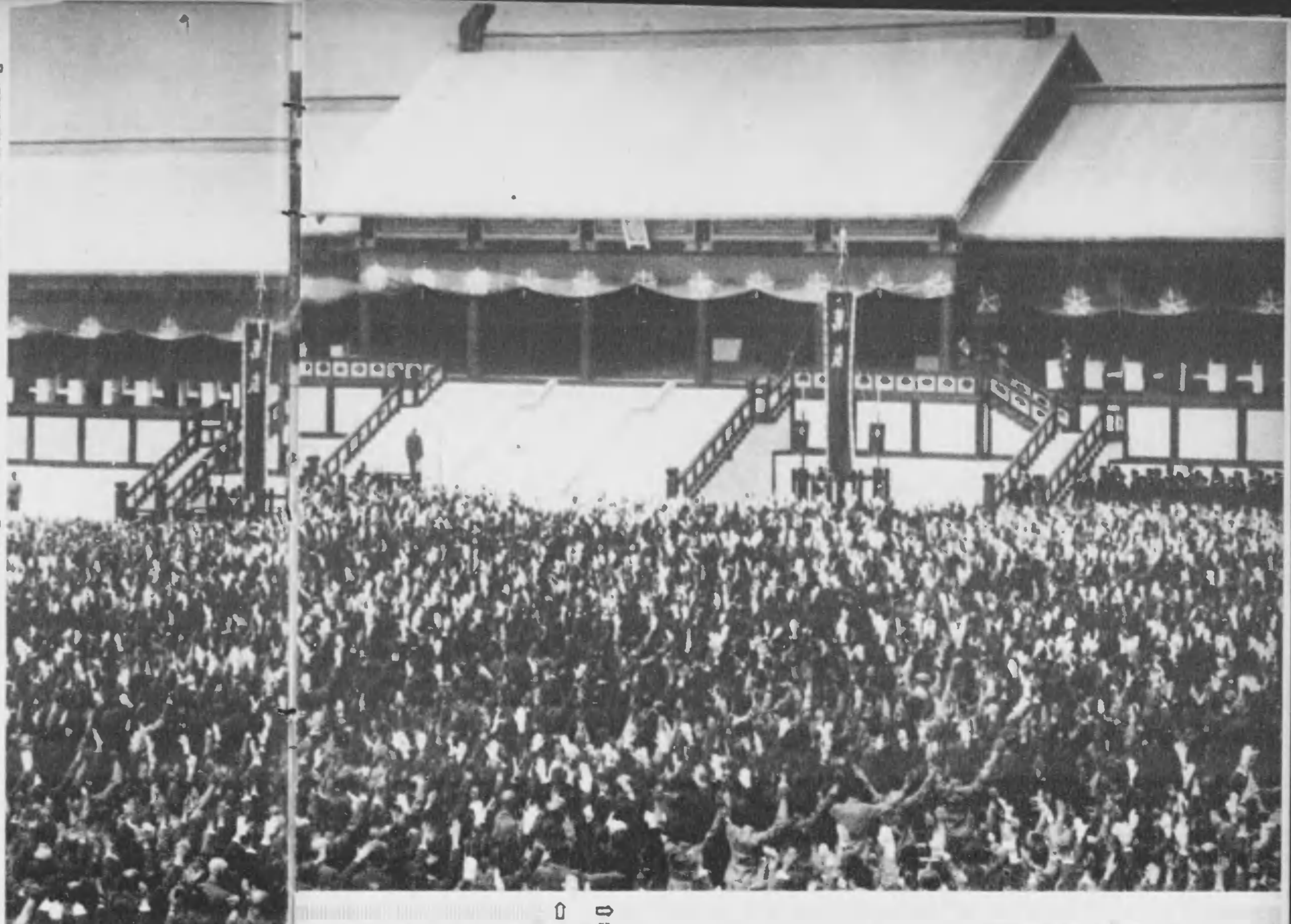
建國十周年式典を明日に控へた
九月十四日滿洲國皇帝陛下には
諸員を隨へさせられ建國忠愛廟
奉斎祭に御親拜せられた



皇陛下御臨幸に際しての御礼



満洲國の繁栄を祈りながらに踊り舞う慶祝舞



会場のなかにも祝國の聲に沸いた観衆の姿

満洲國建國新

十年周年式典

次いで翌十六日、再び皇陛下の御臨幸を仰いで、滿洲國政府、協和會主催の祝賀會が式典会場と同じ南滿洲に於いて開かれたが、『建設十年』の喜びに沸きたる國都の歡喜と興奮は勿論、國境りの基礎固めやうやく成つた慶祝に歡呼をあげる四千三百万蒼生の姿は、大東亞戦下一入意義深きものがあつた。

分列行進
 世界に響けとばかり、皇陛下の萬歳奉頌
 撮影 滿洲國通信社





□ 「兄さんの古帽子をかぶせて、うちの下着させ
たげと編みか頭にするものあれへんか」

□ こんな顔で俄が逃げるかしらんと技師さんち
よつと自信がなささう

□ いよ／＼ 騒然と歩哨に立つ案山子部隊は田圃の一角に整列した。これでは敵もひびくり／＼

「兄さんの古帽子をかぶせて、うちの下着させたげと編みか頭にするものあれへんか」

翌年ちや、満作ちやの登りの秋に猫の手も借りた農家では案山子作りにもさぞかしお困りでせうと大阪市天下茶屋の女子青年團員は共同で廢品利用の案山子を製作、住吉區の農會に寄贈しました。雀のわるさに手を焼いてゐたお百姓さんたちは思ひがけない贈物に大よろこび、早速、みのりの波打つ稲田におし立てしましたが、附近のおしやべり雀もこれにはすつかり驚いたやうです



町か里、救援案山子隊



雀ども！ 今日から
むしか番するぞ

トントコ トントコ
稲田をねつて悪戯
に初見参

提出 入江幸吉



大東亞戰爭漫日誌
川石 介進



ウイパー
敗失み込抱コルト -キルイウ



家...部隊戦の製来ブ...



ルカスカダマ



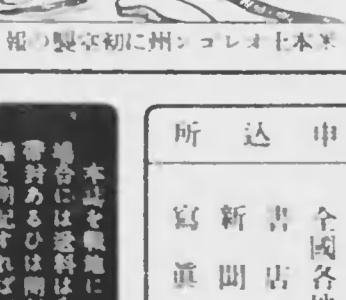
入侵たまへ...カウカ...



半周十てつ育二かや健國滿

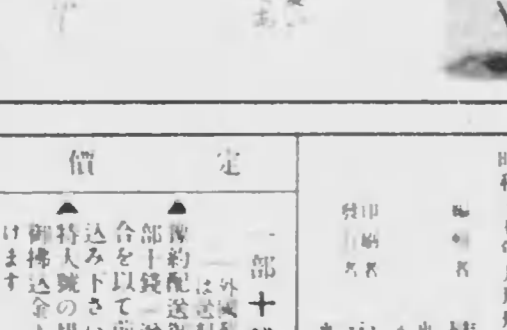
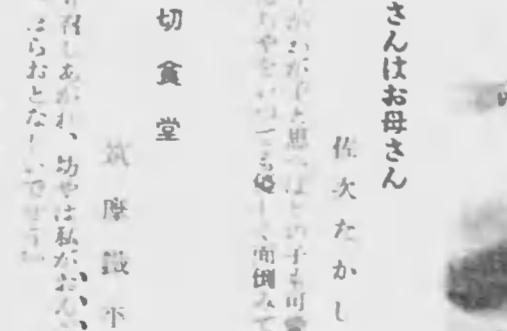


合公衆...糧食民官陸軍

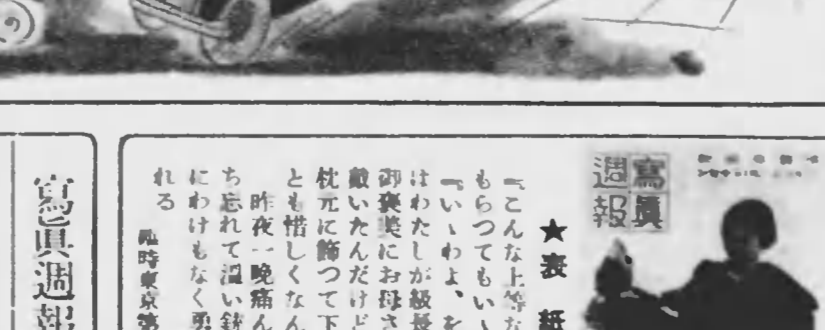
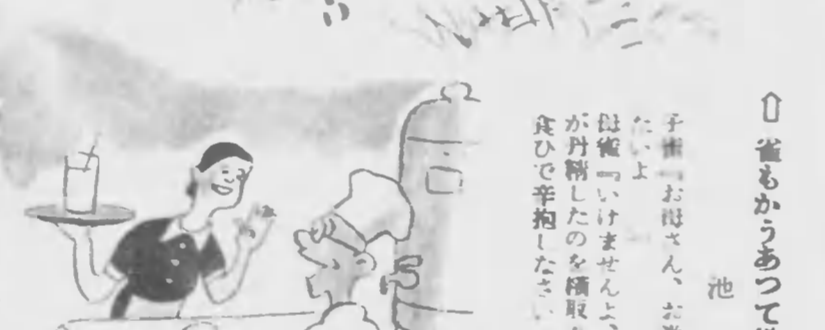


報の製本初に州コレオ士本軍

片手も無駄にはしません
白路 徹
「片手も無駄にはしません」
「白路 徹」
「片手も無駄にはしません」
「白路 徹」



車掌さんはお母さん
佐次 大かし
「車掌さんはお母さん」
「佐次 大かし」



雀もかうあつて欲しい
池 定男
「雀もかうあつて欲しい」
「池 定男」



白衣勇士隊間の打撃戦
名古屋市 後藤 敬一郎
療養生活のつれづれに悩む白衣の勇士を招待して一日爽快な打撃戦に興じて戴かうと、名古屋市鉄棒奉公会では下之一色水産報國と共催で軍人投擲強化運動を間近かに控へた九月十一日、伊勢湾海上に白衣の勇士隊打撃網漁を行ひました。この日夕刻までに大漁の山を築いた新鮮な海の獲物はトラックで同院軍病院の重症患者の食膳に贈られました。



復習室
本報からあなたは何を學んだか？
1 軍人投擲を強化する常會の實績表三つは？ (15頁)
2 マレーの豪傑な海軍基地フレグザブルの誕生は？ 公園？ 戦場？ 象の放牧場？ (16頁)
3 私は軍人遺族の未亡人ですが、養育主となる職業輔導所があるでせうか？ (16頁)
4 わが國に鐵道が開通してから何年になるでせう？ 三十年？ 五十年？ 七十年？ (17頁)
5 マレー語講座 プラハ ウモアンカウ ○の○は？ (14頁)
6 十月から、また鐵道の一級家庭特別回車がは行はれますが、われわれが供出するものは？ 現用品？ 現用品？ (16頁)
7 十月三日から八日まで全國一斉に軍人○○○○が行はれます (14頁)
8 盟邦滿洲國の人口は、三千万八百万、四千万、五千万、六千万、七千万、八千万、九千万、有田、水井の三特派大使は、こんどの目的で中國へ派遣されたのですか？ 大東亞省設置に關する連絡のため？ 日華保衛條約締結のため？ 汪主席、褚特派大使の派遣に對する答復のため？ (14頁)
9 十九時三十分の急行で一才京都まで、かや、鐵道の二十四時間制は何日から？ (17頁)
10 一週十點としてあなたは働いてましたか？ (14頁)

だんかゝんきって

一枚二円

才五回賣出 十月一日→十五日

抽籤日 十月二十日

割増金 一等千円以下多数

當籤率 十一枚に付一枚



抽籤の済んだ切手は五枚以上纏めて郵便局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。